

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103870
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぶほうむ3丁目
所在地	松山市水泥町631番地
自己評価作成日	平成26年 7月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切に、利用者さん同士、職員同士が声掛け、見守りを行うことで一人ひとりが役割を持って楽しく生活できるような支援をしている。健康管理にも気を付けており、主治医との連携をとることで健康的な生活ができるように支援している。
月に一度のバザーを通し、利用者さんが育てた野菜や手作りの物を販売するなどして、地域の方々とのふれあいを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●系列事業所と合同で、昨年7月から毎月第2土曜日に事業所の駐車場にテントを張り、午前中1時間程、青空市を開催されている。ご家族や職員から集めた余剰品や事業所の畑で採れた野菜等を並べ、利用者が売り子になり、地域の方とふれ合っておられる。口コミで伝わり、毎月10名程の地域の方が来られるようだ。近くにある天満宮の夏祭りには、系列事業所と合同で子ども向けのゲームを手作りして出店されている。又、じゃんけんゲームで利用者と子ども達がふれ合えるよう工夫されている。秋祭りには、事業所の駐車場に、お神輿や獅子舞が来てくれ、利用者は、集まった近隣の方と一緒に見物された。
●昨秋に、法人内事業所が合同で「事例検討発表会」を開催された。発表会に参加した利用者と職員は、「一番好印象で良い取り組みをしている施設」に投票し、「スローライフ介護サービス大賞」を決められた。取り組みについて、系列事業所の職員と意見やアドバイスを交わす良い機会になったようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ぐるうぷほうむ3丁目

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名 増田 佳子

評価完了日 平成 26 年 7 月 4 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念に沿ったケアができるようミーティング等で職員の意識 を高め、ご利用者個々について話し合っている。また、申し 送り等で、ご利用者の状態や様子などを伝え、常に理念に 沿った支援に努めている。	
			(外部評価) 法人代表者が作成した「人生の継続性を大切にし、自分が 自分として生きていく」等、三項目ある法人の基本理念を事 業所の入り口に掲示されている。管理者は、新人職員には まず、理念の中の「自分がされたり言われていやなことはしな いし言わない(尊厳の保持)」を指導しておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事(小運動会・夏まつり・秋祭りなど)に積極的に 参加をしている。また日常的には、散歩や外出時にご近所 の方や子供たちと挨拶を交わし、話をするなど交流をに努め ている。	
			(外部評価) 系列事業所と合同で、昨年7月から毎月第2土曜日に事業 所の駐車場に TENT を張り、午前中1時間程、青空市を開催 されている。ご家族や職員から集めた余剰品や事業所の畑 で採れた野菜等を並べ、利用者も売り子になり、地域の方と ふれ合っておられる。ロコミで伝わり、毎月10名程の地域 の方が来られるようだ。近くにある天満宮の夏祭りには、系列事 業所と合同で子ども向けのゲームを手作りして出店されてい る。又、じゃんけんゲームで利用者と子ども達がふれ合える よう工夫されている。秋祭りには、事業所の駐車場に、お神 輿や獅子舞が来てくれ、利用者は、集まった近隣の方と一 緒に見物された。管理者は、「地域の方に気軽に相談に來 てもらえるような事業所にしたい」、又、地域の公民館等で 「認知症の講座等を開催したい」と話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) いつでも認知症の相談や見学を受け入れている。 月に一度、「青空市」(フリーマーケット)を開催し、気軽に立 ち寄って頂けるよう地域の方との触れ合いの場を設け、当施 設を知って頂けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 平成23年に現在地に移転し、併設施設の小規模多機能 型施設と合同で開催をし、ご家族・地域の方・地域包括・市 職員へ案内をかけ、ご利用者・職員も参加をして現状の報 告と意見を交換を行う。また、話し合った内容において、今 後に活かせるように努めている。	
			(外部評価) 会議は、近くにある系列事業所も含め、三事業所合同で開催して いたが、昨年9月からは、同じ建物内の二事業所合同で開催され ている。会議には、利用者や区長、民生委員や地区社協の方、訪 問看護師等が参加されている。前回の外部評価結果を受けて、ご 家族にも案内を送付されており、参加につながる場合もある。会議 では、利用者の日常の様子や行事、取り組み等の報告を行い、意 見をうかがっておられる。会議に参加した利用者の「もっと外に行き たい」という発言から外出支援について見直されたこともある。7月 の会議時には、地域の防災士を招き、9月に予定している避難訓 練の内容を相談をしたり、又、近くのため池の決壊等、地域で想定 される災害について教えていただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会議を通じて、市や地域包括の担当者に施設の 現状や取組みを伝え、常に情報交換に努めている。また、 分からないときには、市町村の窓口に直接相談に行くなど普 段より連携をとるようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、市の担当者から、季節ごとに食中毒 やノロウイルス、インフルエンザ等の感染予防の注意点等の アドバイスをいただいている。生活保護受給者の生活につ いては、市と相談しながら支援されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 常にご利用者の様子をみて声かけをし、身体拘束にならな いケアを心かけている。また、異常行動があった場合にも、 ご利用者を理解するように努め、寄り添うようにしている。	
			(外部評価) 事業所の出入り口は、戸を開けると鈴の音が鳴るようにして いる。「畑に行きます」と職員に声をかけてから外で畑仕事す る方がおられ、調査訪問日の午後も長靴を履き、庭で畑仕 事に励む姿がみられた。ベッドからずり落ちる心配がある利 用者には、居室にカーペットを敷き、マットレスに布団を重ね て休めるように対応されていた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 理念を通し、ご利用者を尊重した介護に努めている。また、入浴などを通し、身体を観察し、ケガや打ち身がないかチェックをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度の必要がある場合には、地域の包括センターなどと相談をするように考えている。 研修会などに参加し、制度の理解に努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、ご本人・ご家族へ十分説明を行い、理解・納得頂いて締結する。また、不明な事に関して問い合わせがあれば、随時対応するようにしている。 改定時には、書面にて案内・説明をし、同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議にご家族も参加していただき、要望や意見を聞くようにしている。また、“ご意見箱”を設置したり、面会時には近況を伝え、ご家族の要望等を聞き、実践できるように努めている。 (外部評価) ご家族の来訪時等に利用者の日々の様子を報告し、ご家族の意見や要望等を聞いておられる。又、利用者の様子を書いた手紙を、毎月のご家族へ送付する書類に同封されている。法人発行の季刊誌「すろうらいふ新聞」は、法人内各事業所の行事や取り組み等を写真にコメントを書いて紹介されている。運営推進会議で利用者の生活の様子を報告した際には、ご家族から「年末年始の過ごし方がよく分かり、楽しく過ごしたようで安心しました」という感想があった。	ご家族とともに利用者の暮らしを支えていけるように、たとえば、行事や外出時等にお誘いしたり、事業所の取り組みと一緒に活動したり、又、勉強するような機会をつくってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティングの際、意見などを出し合う機会を設け、今後の運営に反映させれるようにする。	
			(外部評価)	
			昨秋に、法人内事業所が合同で「事例検討発表会」を開催された。発表会に参加した利用者と職員は、「一番好印象で良い取り組みをしている施設」に投票し、「スローライフ介護サービス大賞」を決められた。取り組みについて、系列事業所の職員と意見やアドバイスを交わす良い機会になったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			年に一度、職員面談を設け、職員の要望や勤務状況を把握するようにしている。職場環境や職員の勤務条件等全体的に見直しをし、整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			月に一度、職員向けに内部研修を行っている。介護従事者が少ない場合は参加できないが、出来るだけ皆が参加できるよう指導している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			小野地区の社会福祉協会などの集会や行事に出来るだけ参加をし、相互の情報交換するとともに交流を深める。また、この機会を大事にネットワークづくりに努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用開始前の面談で、ご本人・ご家族の要望などをよく聞くことから関係づくりを始め、安心の確保に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前の面談時より、コミュニケーションがとれるように配慮 している。また、できるだけ施設見学に来ていただき、施設の 様子や雰囲気を覚えてもらうことにより、不安が少なくなるよう 努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 入居前の面談で、ご本人やご家族の意向を十分に聞くよう にし、必要な支援を一緒に考えるようにしている。また、他の サービスを含め対応できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 日々の生活の中で、家事などの出来ることや手伝いたいこ とを職員と一緒に行動などして役割を持ち、共同生活を共に 暮らす者同士で築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常会話の中で、ご家族の話題を取り入れるように心掛け ている。また、ご家族の面会時には、近況報告をしてご意見 などを聞くようにしている。 季節行事などにはご家族にも声かけをし、一緒に参加でき る場を作るようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 日常の散歩などでご近所の方と顔なじみになり、声をかけ ていただくなどとてもよい関係が築かれてきていると思う。ま た、受診時を利用し、馴染みのケアマネやスタッフの方に会 いに行ったりしている。時には、よく行っていたお店やご本人 が過ごされていた地域へ出向いたりすることもあり、馴染み の人や場所との関係が途切れないよう支援を行っている。 (外部評価) お正月には、ご自宅に戻り、ご家族と過ごす方がおられる。 月に数回、ご家族と外食を楽しむ方がおられ、調査訪問日 にも迎えに来た娘さんと一緒に出かけていかれた。受診の 帰り道に、以前よく利用していたスーパーに立ち寄ることもあ る。お店の方も利用者のことを覚えてくれていたようでお話し 等もされて、利用者は喜ばれたようだ。利用者から希望があ れば、懐かしい場所まで足を延ばしてから帰ることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士のコミュニケーションがとれるよう、リビングの配置やお部屋の訪問が出来るような雰囲気や環境作りを考えている。そして、ご利用者同士で声を掛け合い、励まし協力しあい、楽しく会話ができるなど共に支え合う場面を作っていけるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時に何かあれば対応させて頂く旨ご家族に伝えており、相談があれば対応、協力できるよう努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話からご本人の気持ちや要望など伺い、意向の把握に努めている。また、ケアプラン作成時に今後の支援につながるように、ご本人の希望やしてほしいことを聞くようにしている。	
			(外部評価) 生活習慣や好み等、事業所独自のアセスメント表を用いて、希望や意向等の把握に取り組まれており、年1回更新されている。日々の個別記録には、会話やご本人の言葉も記録して本人本位に検討するよう努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族に確認させていただいたり、フェイスシートを活用するだけでなく、ご本人にもこれまでの暮らしについて聞きとりをしながら把握している。ご本人のこれまでの生活を大切にし、少しでも近い生活ができるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりに対して気を配り生活支援をしていく中で、様子や心身の状態などスタッフ間で情報交換を行い、現状把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			定期的にミーティングを行っており、その中でモニタリングやその方のケアについて職員で話し合っている。 また、情報交換をしながらケアプランの作成・見直しに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			事業所は、「ご本人の思いを大切にしたい」介護計画作成に努めておられる。月1回職員で話し合ってモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをされている。介護記録の様式には、短期目標や支援内容を記入する欄を設けており、職員個々が日々実践できるよう工夫されている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ご本人やご家族の状況や希望に添えるよう聞き取りを行ったり、ケアプランを参考に話し合いながら、柔軟な対応を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の方や地区の役員さん、地域包括の方などにアドバイスを貰いながら、安全で安心した生活が送れるように支援するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診は、ご本人やご家族の希望を大切にし、同行できるご家族やスタッフが付き添い、適切な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 受診は、ご家族等の希望に沿って、入居以前からのかかりつけ医や協力医療機関の受診を支援されている。受診に向くのが困難な状況になってきた場合は、ご家族と相談して、往診を受けられるよう支援されている。又、週1回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理や健康に関するアドバイスがある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 訪問看護師に心配事を相談しながら、適切な受診や看護が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は面会をこまめに行い、安心してもらえるようにし、今後の対応を病院と情報交換をしながら話し合い、出来るだけ早期に退院できるように努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族と連絡を取り、ご本人やご家族の希望に添えるように主治医と連携して環境を整える。	
			(外部評価) 入院となったが「手術はしない」と決め、事業所に戻って来られて、事業所で最期まで支援されたケースがある。事業所では、見守りやすい居間に面した居室を準備された。利用者の中には、様子を心配してそばにいてあげるような場面もみられたようだ。職員は、医師や訪問看護師等から、今後、起こりうる状況等を教えてもらいながら方針を共有し、連携して支援に取り組まれた。亡くなり事業所を出て行かれる時には、ご本人の手を握ってお別れする利用者もおられたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応が出来るように連絡手順を決定したり、対応マニュアルも活用出来るように機会を利用し身に付けていきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行い、対策を勉強している。運営推進会議に地域の方にも参加していただき、避難訓練の報告やご協力を頂けるよう連携に努めている。また、地域の防災訓練にも参加するようにしている。 (外部評価) 併設事業所と合同で年2回避難訓練を実施しており、昨秋には、運営推進会議時に地震を想定した避難訓練が行われた。会議参加者に見学してもらい、市の担当者から地震時に注意すること等のアドバイスをいただいた。又、消防署の指導のもと、非常階段を使って利用者を避難させる方法も体験された。地域の防災訓練に利用者2名と職員2名で参加し、煙の中を避難する体験をされた。又、事業所では2ヶ月に1回、消火器の位置やコンセントの埃の点検等、自己点検表に沿ってチェックをされている。さらに今後は、夜間を想定した避難訓練や地域との協力体制についても整備に向け、取り組みをすすめてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人格を尊重した言葉掛けや個人に合わせた対応を心掛けている。 (外部評価) 管理者は、利用者を最優先するよう職員に話しておられる。事業所庭の野菜作りを任されている方や、毎朝1階まで新聞を取りに行く方、洗濯物たたみをする方等、役割を持って暮らせるよう、支援に取り組まれている。女性利用者の入浴支援は、同性介助の希望に応じておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 様子や会話の中からご本人の希望を表せるように働きかけ、自己決定が出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースを大切にし、無理強いをせずやりたいこと をくみ取り、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) ご本人に聞きながら好みに合った身だしなみを鏡を見なが ら服を選んだりして、支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下ごしらえや食器の片付けなど一緒に行えるように 努めている。個人の好き嫌いに気を付け、嫌いな物は工夫し ている。 (外部評価) 昨年末から調理専門の職員を配置して食事作りをしており、 献立は、利用者の希望も採り入れながら一汁三菜を基本 に、冷蔵庫の中やストック、庭の野菜等をみて決めておられ る。毎月1日には、赤飯を食べる風習を大切にされている。 職員は全員、利用者から少し離れた台所で同じものを食べ ながら、利用者を見守っておられた。テーブルを拭いたり、ご 自分と周りの方の食器をシルバーカーに乗せて下膳する利 用者もおられる。又、夕食後には、テーブルでゆっくり食器 拭きをされるようだ。誕生日には、利用者にとっての「ごちそ う」を用意して、ケーキでお祝いされている。年末には系列 事業所と合同でお餅つきを行い、利用者も一緒に丸めてお 正月の準備をされた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 血糖値の高い人には、こんにゃくご飯など状態に応じた対 応をしている。食事量を記入し状態を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後は口腔ケアを行い、清潔を保てるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェックを利用し、各個人の排泄のパターンに合わせて、声掛けや介助を行うことで、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			排泄チェック表で利用者全員の排泄パターンの把握に努め、声かけや誘導を行い、日中はトイレで排泄できるよう支援されている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			声掛けだけでなく、会話をしながら一人ひとりの希望に沿った入浴を支援し、楽しみながら入浴できるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			週3回入浴支援を基本にしているが、毎日入浴の準備をしてご本人の希望を聞きながら支援されており、毎日入浴する方もおられる。車イスを使用する方も職員が2名で介助し、浴槽で温まることができるよう支援されている。現在、入浴を拒む方が多いようで、声かけを工夫したり、タイミングをみながら支援されている。冬場は柚子湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの生活リズムや体調に応じて、安眠できるように声かけや誘導をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋をファイルの綴じて職員全員がすぐに確認できるようにすることで、薬の作用や目的等について把握するように努めている。 受診時には症状の変化を伝えることで、主治医の指示を仰ぐようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の関わりあいで各個人の楽しみを見つけ、楽しんでもらったり出来ることは手伝ってもらい、感謝を伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に沿って近所を散歩したり、季節に応じてお花見やレストランで食事をしたりと外出できるように努めている。 また、ご家族とも協力して一緒に出掛けられるように努めている。 (外部評価) 気候の良い時期には、毎日のように事業所の周りや近くにある天満宮にお参りがてら散歩に出かけておられ、途中にある系列事業所に寄り、休憩することもある。お正月は、天満宮へ初詣に行き、春のお花見は重信川河川敷で楽しまれた。個別に買い物に付き添ったりお墓参りに同行されている。	利用者個々に行きたいところや懐かしい場所等を探り計画したり、少人数や個別の外出・外食等、利用者が出かけて楽しめるような支援を工夫されてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金はほうむで管理しているが、ご本人が希望するものがあれば、一緒に買い物に出掛けている。 支払いの時は、ご本人の手からお金を払っていただくようにするなどの支援を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望に合わせて手紙や電話をいつでも利用できるように努めることで、ご家族の方やご友人などとやり取りができる環境である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			生花や身近なところに人形を置くなどすることで、自宅にいるような居心地の良い雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関横の畑には、トマトやキュウリ、ナス等の夏野菜が実り、オシロイバナが咲いていた。居間や廊下の壁面には、行事や外出時等の写真が飾られていた。利用者同士で助け合えるように食事時に3台ある食卓テーブルを利用者だけで囲むようにしたところ、利用者同士の会話が多くなったようだ。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			自宅から使い慣れた馴染みのあるものを持って来て頂いたり、好みの物を置くことで、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			利用者は、個々に使い慣れたベッドやダンス、お好きな人形やぬいぐるみ等を持ち込んでおられる。箱を利用して職員が手作りのミニ仏壇にご兄弟の位牌を祀り、朝晩に手を合わせている利用者がおられる。又、雑誌や広告等から切り抜いた花や植物、お好きな歌手等の写真を壁面全体に張り巡らしている居室もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			日々の関わりを通して、一人ひとりの持っている力を把握し、出来ることはしていただくように支援している。 また、各個人に合わせた部屋作りをとおして、本人にとって過ごしやすく、生活しやすい環境を作るようにしている。	